

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立小中一貫校富士校中学部

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

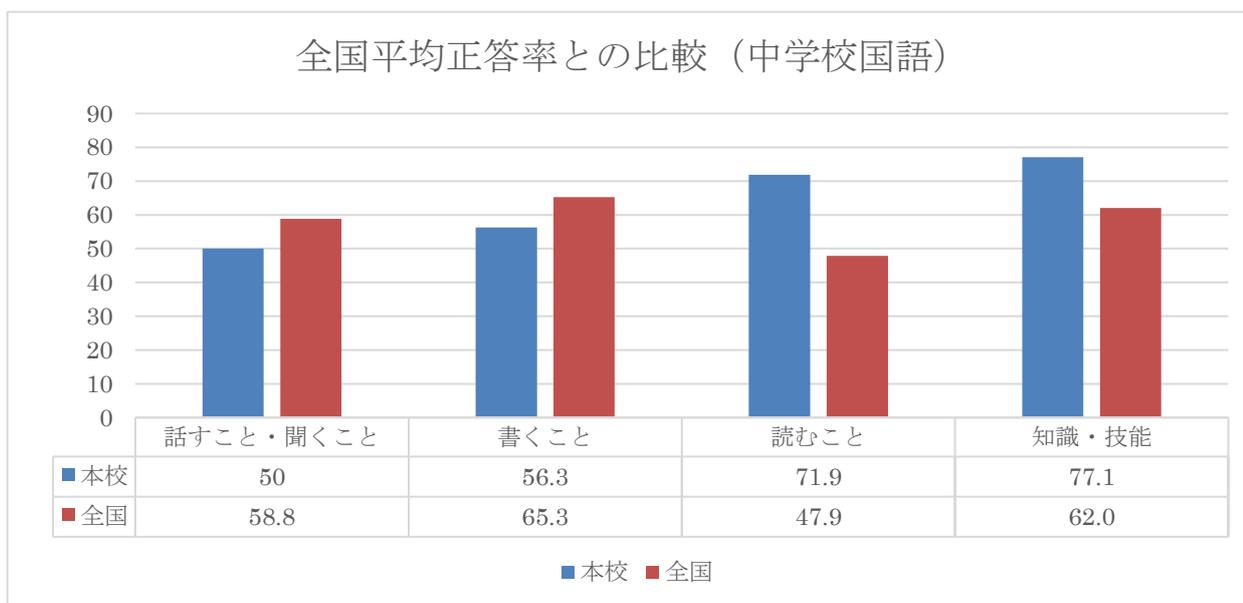
生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心, 授業内容の理解度, 基本的な生活習慣, 家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組, 指導方法の工夫, 学校運営に関する取組, 家庭・地域との連携の状況 など

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「読むこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。無回答率は全国平均より低いものの、「話すこと・聞くこと」「書くこと」においては、それぞれ各1問ずつ高いものがあり、それが全体の結果にも表れました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が15ポイント上回りました。これは、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の基盤となる言語力であり、日頃の漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。また、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点共に10ポイント以上上回っています。問題形式も「選択式」「短答式」における正答率も全国平均を上回っていますが、「記述式」においては下回りました。「話すこと・聞くこと」における「話合いの話題や発言を踏まえ、『これからどのように本を選びたいか』について自分の考えを書く」問題と、「書く」における「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」問題の2問が、無回答が多く結果も下回りました。思考操作に関わる用語の学習と共に、客観的に判断できる学習で補うなど、授業改善を通して力を付けていきたいと思えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

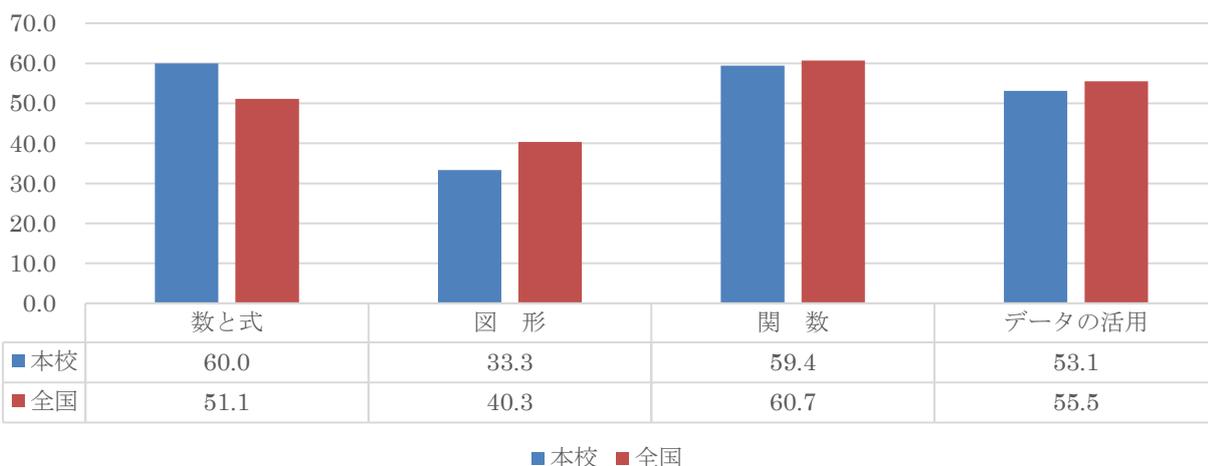
- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書きに加え、辞書を活用させ、熟語の意味調べなどを通して語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。
習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学

全国平均正答率との比較（中学校数学）



(1) 結果

「数と式」の領域は全国平均正答率を上回っていますが、その他の3つの領域は全国平均正答率を下回っています。特に「図形」の領域は差が1番大きくなっています。無回答率については、全国平均より低い問題が多くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「知識・技能」の問題の正答率が全国平均正答率を3.9ポイント上回りました。単元の中で演習の時間を設けることや朝の小テストを充実させることなどの基礎的・基本的な内容の定着をねらいとした取り組みの成果が表れていると考えられます。一方で、課題は、「思考・判断・表現」の問題の正答率が全国平均正答率を6.8ポイント下回っていたことです。自分の考えを式や言葉を使って、説明する機会を増やすことなどを通して、道筋を立てて説明できるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 単元の中で演習の時間を設けることや定期的に小テストを行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を目指します。
- 数学で学習する用語を使いながら、自分の意見や考えを書く時間を確保します。また、発展問題では、既存の知識をどのように用いるのか意識させることで、活用力の向上を図ります。
- 個別指導、プリント、ワーク、家庭での課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、視覚的に分かりやすい授業の実践に努めるとともに補充指導にも努めます。

【ご家庭では】

- 数学は毎日1問でも解くという習慣が力につながります。多くの問題に挑戦、いろいろな解き方を学ぶことが大切です。課題やテストに目を通し、今何を学習しているか、確実に理解できているか、解くのにどれくらいの時間がかかっているかを把握し、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 数学を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。生活場面で数学を発見してみてください。「料理で割合」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには数学を使えるものや考え方が意外とあります。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	50.0%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	12.5%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	25.0%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	37.5%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	37.5%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	87.5%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	100%	77.5%

決まった時間に起床、就寝できている生徒の割合は、全国平均を下回っています。また、毎日朝食を摂る割合も、全国平均よりも低く、生活リズムの乱れがみられます。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

規範意識については、全国平均よりも高い結果が出ています。特に「いじめ」に関しては、全員が「どんな理由があってもいけないことだ」と回答しています。

《家庭学習の様子》「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。」

調査の項目	本校%	全国平均 %
「3時間以上」	0%	9.2%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	22.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	62.5%	32.6%
「30分以上、1時間より少ない」	37.5%	18.4%
「30分より少ない」	0%	10.4%
「全くしない」	0%	6.6%

家庭学習については、授業以外の学習時間が2時間以上の生徒はおらず、全国平均と比較して、大幅に下回っています。現在、自学ノートの提出を行うことで、家庭学習の習慣化のための取り組みを行っていますが、その目的を生徒に伝え、家庭学習の質と量が向上するよう指導していきます。また、定期的に生徒の生活についての調査を行い、規則正しい生活、学習時間の現状について把握していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 「話し合う活動」を取り入れた授業づくりを行い、学びを深め、誰もがわかる授業のための指導方法の工夫と向上に努めています。
- 昨年度同様、自主学習(自学)への取り組みを行っています。授業中に学習内容について助言したり、提出された自学ノートに対して、教科担当からアドバイスしたりして、充実を図ります。毎週月曜日には、朝テスト(5教科)を行っています。試験の範囲は前週に知らせ、週末に学習に取り組めるようにしています。また、すこやか週間生活チェックや学習アンケートなどを定期的に行い、生活や学習を把握し、よりよい学習習慣の構築のための助言を行っています。
- 今年度も、朝の会の前に朝読書を行っています。図書室と連携して中学生に読んでほしい本などを紹介したり、全員で同じ本を読む機会を持ったりして、読む本の幅を広げるよう工夫しています。

【ご家庭では】

- 生徒質問紙の結果にあるように、家庭での学習時間が全国と比較しても短い傾向にあります。学習習慣が身に付くまでは、確認の声かけ、習慣が身に付いた生徒に対しては、内容の質を向上させていけるよう励ましの声かけをお願いします。前期期末テスト、後期中間テスト、実力テスト等の前に学校で学習計画を立てています。計画的に、継続的に家庭学習を進めることができているか、ご家庭でも確認やお声かけをお願いします。